

輝いている人を紹介します

まちのキラリ

デザイン書道家

岸波 恵子 きしなみ けいこ さん（保原地域）

畳一畳もの大きな紙に、一気に筆を走らせる岸波恵子（恵泉）さん（60歳）。気迫あふれる文字に力をもらい、丸く柔らかい文字に優しく癒される。見る人の心を揺さぶり、場の空気感をも変えてしまうその筆文字には、岸波さんの魂が宿っている。



Profile ● 恵泉（けいせん）

7歳から書道を学ぶ。2009年からデザイン書道家久木田ヒロノブ氏に師事。現在はデザイン書家としてお酒のラベル、命名書などを幅広く手掛け、ヨークカルチャー郡山・福島「デザイン書」講師も務める（福島は5月開講）。

道の駅伊達の郷りょうぜんには季節に合わせた恵泉さんの書が毎月飾られている。

昔から書道が好きでずっと続けていました。夫の実家の酒屋がリニューアルするとき、看板をプロの書家をお願いしたのですが、届いた看板の文字は楷書とは違った味があつてとても惹かれました。これが縁で、デザイン書を習い始めました。

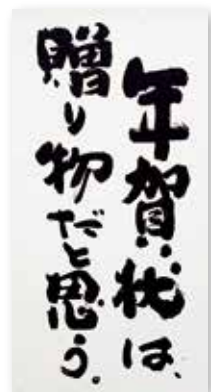
習い始めた頃は全然書けませんでした。先生が生み出す文字がすごすぎて目が離せず、技術を習得したい一心でひたすら先生の手の動きを見続けました。

全日本書道芸術展「デザイン書部門」で2020年にグランプリをいただいてから、賞に合った字を書きたいという気持ちが強まりました。お仕事の覚悟が明確に生まれましたね。

デザイン書との出会い

デザイン書は①可読性②インパクト③お客さんの要望に沿った字であること、を守ればあとは自由なんです。上手下手は関係ありませんし、書き順を無視しても、利き手と逆の手で書いてもいい。道具も、何を使ってもいい。道具も、何を使ってもいいんです。

イメージが出来上がるまで、何度もデッサンをしては消して時間をかけて構図を決めています。自由な発想ができるよう、



全日本書道芸術展「デザイン書部門」で2020年に頂点に輝いた作品。

自由ゆえの苦勞、日々発想磨く

日頃から常にアンテナを張っています。テレビのテロップなどの筆文字もチェックしますし、細かいところにも意識して生活しています。

心に届く喜び、ご縁に感謝

個展の時に「叶」の文字を見て涙を流した方がいました。「地震や水害で大変だったけど元気をもらった。」と言ってくれました。SNSで発信した時にも、コメントをくれたり応援してくれる人がいて、人との関わりやご縁のありがたさを感じています。

書に託すのは…心

字は上手でも下手でも、丁寧に書くことが大切です。丁寧に書けば自分の心が文字に表れて相手にも伝わると思います。

これからは、伊達市や福島を筆文字で応援したいと思っています。私の書を見て元気になってほしいし、笑顔になってもらえたらうれしいです。これから前向きなメッセージを書き込めて、届けていきたいです。